

精神科領域専門医研修プログラム

- 専門研修プログラム名： 熊本大学病院連携施設 精神科専門医研修プログラム

- プログラム担当者氏名： 城野 匡
住 所： 〒 860 - 8556 熊本市中央区本荘 1 丁目 1 番 1 号
電話番号： 096 - 373 - 5184
F A X： 096 - 373 - 5186
E - m a i l： papillio@taj.bbiq.jp

- 専攻医の募集人数： (9) 人

- 応募方法：
履歴書を下記宛先に送付の上、面接申し込みを行う。
宛 先： 〒860-8556 熊本県熊本市中央区本荘 1-1-1
熊本大学医学部神経精神科医局
T E L： 096-373-5184
F A X： 096-373-5186
担 当 者： 城野 匡 (医局長)

- 採用判定方法：
科長・医局長が履歴書記載内容と面接結果に基づき厳正な審査を行い、採用の適否を判断する。

I 専門研修の理念と使命

1. 専門研修プログラムの理念 (全プログラム共通項目)
精神科領域専門医制度は、精神医学および精神科医療の進歩に応じて、精神科医の態度・技能・知識を高め、すぐれた精神科専門医を育成し、生涯にわたる相互研鑽を図ることにより精神科医療、精神保健の向上と社会福祉に貢献し、もって国民の信頼にこたえることを理念とする。

2. 使命 (全プログラム共通項目)
患者の人権を尊重し、精神・身体・社会・倫理の各面を総合的に考慮して診断・治療する態度を涵養し、近接領域の診療科や医療スタッフと協力して、国民に良質で安全で安心できる精神医療を提供することを使命とする。

3. 専門研修プログラムの特徴

基幹施設となる熊本大学病院神経精神科は1904年開講の歴史ある教室で、平成12年に開講100周年記念祝賀会を開催すると共に記念誌を発刊している。代々、統合失調症やアルツハイマー病の脳病理、水俣病や三池炭塵爆発のフィールドワークなどで多くの業績を残しており、伝統的に生物学的な精神医学を柱としている。

治療環境としては、西病棟2階に開放エリア38床（うち個室6床）と閉鎖エリア12床（うち2床は隔離室）からなる50床のベッドを有している。病棟スタッフルームとカンファレンスルームに通じる廊下を抜けると228m²からなる広々とした運動療法スペースが広がる。ここでは卓球は勿論のこと、多くの入院患者さん達に対して専属作業療法士が企画した作業療法が毎日行われ、備え付けのスクリーンを用いて精神科臨床セミナーも随時開催される。運動療法スペースの周囲には音楽療法室（Wiiや各種精神科DVDライブラリーあり）、マジックミラーを備えた観察室、作業療法準備室、心理面接室2つ、リラクゼーションルームなどの各部屋も併設されている。これらは全て精神科専用の設備であり、14名の常勤メディカルスタッフ（心理士3名、精神保健福祉士6名、作業療法士3名、認知症看護認定看護師1名、など）と共に充実した精神科チーム医療を実践しているのが大きな特徴である。平成26年10月には外来診療棟が新築され、神経精神科は4階フロアを単独で使用し、待合室からはガーデニングのスペースを眺めることができ、癒やしの空間となっている。「認知症疾患医療センター（基幹型）」「高次脳機能障害支援センター」および「発達障がい医療センター」の指定を県から受けており、認知症および高次脳機能障害、老年期の気分障害、児童・思春期のそれぞれ専門外来を開設して診療を行っている。県内唯一の大学病院であり、急性期・慢性期の精神病性障害、気分障害、認知症などの器質性精神障害、神経症性障害、児童・思春期の精神疾患、コンサルテーション・リエゾン精神医療など豊富な症例が経験できる。

また連携施設として、県内では、国立病院機構熊本医療センター、国立病院機構菊池病院、熊本県立こころの医療センター、熊本市とその近郊および県の東西南北に位置し、地域の精神科医療を担っている9つの民間精神科病院と、県外では国立病院機構肥前精神医療センターと国立国際医療研究センター国府台病院・児童精神科と連携している。認知症強化コース、児童・思春期強化コース、臨床研究強化コース（神経心理学）、精神科救急強化コース、地域医療強化コース、子育て支援コースなど、特色ある研修パターンを用意しており、専攻医はそれらの中から選択して研修を行うことが可能である。当科では、10年前から、ほぼ同様のローテーションによる後期研修プログラムを確立しており、複数の精神科医療機関をローテートすることで精神保健指定医の取得に必要な症例も十分に経験できるプログラムとなっていた。今回新たな連携施設に加わっていただき、各専攻医の幅広いニーズに対応できるようにプログラムを整えた。もちろん研修の進捗状況によってはコース変更についても柔軟に対応することが可能である。当研修プログラムのもう1つの大きな特徴は、精神科全般の専門医研修に従事しながら、臨床に直結した研究にも参加できることである。当科の主

たる研究グループである認知症、老年期うつ病、児童・青年期、高次脳機能障害は、全て臨床研究が中心である。例えば、当科の認知症専門外来に関する臨床データベースは現在約 4000 例を有しており、それまさしく臨床研究の宝の山であり、日々の臨床経験と照らし合わせながら様々な切り口からの研究展開が可能であり、かつ医療と介護の連携や専門医とかかりつけ医の連携など、幅広く地域医療を学ぶことができる。このように当該研修プログラムでは、これからの専門医研修に求められている、リサーチマインドの涵養と地域医療の充実を実践することが可能である。

II. 専門研修施設群と研修プログラム

1. プログラム全体の指導医数・症例数

- プログラム全体の指導医数： 75 人
- 昨年一年間のプログラム施設全体の症例数

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	5265	1477
F1	1384	659
F2	6448	2544
F3	8341	1835
F4 F50	3819	566
F4 F7 F8 F9 F50	6184	468
F6	243	50
その他	1761	235

2. 連携施設名と各施設の特徴

A 研修基幹施設

- ・施設名：熊本大学医学部附属病院神経精神科
- ・施設形態： 国立大学法人
- ・院長名：谷原 秀信
- ・プログラム統括責任者氏名： 橋本 衛
- ・指導責任者氏名：城野 匡
- ・指導医人数：(6) 人

・精神科病床数：(50) 床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	499	105
F1	32	5
F2	285	19
F3	332	53
F4・F50	585	18
F4・F7・F8・F9・F50	733	4
F6	5	2
その他	0	10

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

熊本県から、認知症疾患医療センター（基幹型）、高次脳機能障害支援センターおよび発達障害医療センターの指定を受けており、各種認知症および高次脳機能障害、老年期の気分障害、児童・思春期のそれぞれ専門外来を開設して診療を行っている。14名の常勤コメディカルスタッフ（心理士3名、精神保健福祉士6名、作業療法士3名、認知症看護認定看護師1名、など）と共に充実した精神科チーム医療を展開しているのも特徴の1つである。県内唯一の大学病院であり、急性期・慢性期の精神病性障害、気分障害、認知症などの器質性精神障害、神経症性障害、児童・思春期の精神疾患、コンサルテーション・リエゾン精神医療など豊富な症例が経験でき、とくに老年期の精神障害について、外来・入院ともに豊富な症例を有している。研修開始時の最初の1-2週間はオリエンテーションの期間とし、入院診療業務、電子カルテの習得、精神保健福祉法の基本的理解、文献検索の方法などの周知を図っている。関連する診療科（脳外科、神経内科、小児科）とは、症例を出し合うかたちで定期的な勉強会を行っている。特定機能病院であり、全職員を対象とした医療倫理、医療安全、院内感染等の研修会への参加が義務となっている。

B 研修連携施設

① 施設名：国立病院機構熊本医療センター

- ・施設形態：独立行政法人
- ・院長名：河野 文夫
- ・指導責任者氏名：橋本 聡
- ・指導医人数：(1) 人
- ・精神科病床数：(50) 床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	200	189
F1	23	53
F2	147	253
F3	723	162
F4・F50	333	127
F4・F7・F8・F9・F50	17	9
F6	9	16
その他	0	11

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は精神病床 50 床を有する総合病院であり、当院の精神科の特徴としては他科との連携を密にして精神障害と身体障害を同時に有する合併症患者の入院治療を行っております。また、当院が救急医療に積極的に取り組んでいることから、精神科関連の救急患者様についても対応しております。さらに、最近増加傾向にある、自殺企図および自傷行為に対しても、身体的対応が一段落したあとに精神科的に介入することで再発の防止や問題の解決に当たっております。また、一般外来での診療につきましては、うつ病をはじめとして精神疾患の外来治療を行っております。また、院外の病医院および老健施設などから認知症をはじめとして多くの患者様のご紹介をいただいております。

② 施設名：熊本県立こころの医療センター

- ・施設形態：熊本県立病院
- ・院長名：濱元 純一
- ・指導責任者氏名：濱元 純一
- ・指導医人数：(1) 人
- ・精神科病床数：(190) 床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	19	9
F1	95	30
F2	645	104
F3	486	47
F4・F50	119	3
F4・F7・F8・F9・F50	172	11
F6	3	3
その他	481	0

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

熊本県立こころの医療センターは、4つの基本理念を掲げ、県内精神科医療の中核的病院として、民間病院では対応が困難な患者の治療を行うとともに、精神科作業療法・精神科デイケアをはじめとした社会復帰活動、患者家族会運営の共同住居等を活用した自立支援活動に積極的に取り組み、全国に先駆けて短期治療型の病院を目指しています。

- 熊本県精神科医療の中核的機能を有する短期治療型の病院を目指します。
- 政策的医療を中心とした高度医療サービスを提供する病院を目指します。
- 利用者の人権に配慮したアメニティ（快適性）に富んだ病院を目指します。
- 地域とのつながりをもった開放的な明るい病院を目指します。

また、平成24年度からは思春期外来を開設し、平成29年度からは入院病床を開設する予定です。平成27年度からは地域連携室を開設し、退院支援と地域生活支援を行っています。依存症治療の中核施設として活動し、薬物依存症患者などの民間回復施設の支援を開設以前から行い、十数年間継続しています。

③ 施設名：国立病院機構菊池病院

- ・施設形態：独立行政法人
- ・院長名：木村 武実
- ・指導責任者氏名： 本田 和輝
- ・指導医人数：(4) 人
- ・精神科病床数：(167) 床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	249	188
F1	6	1
F2	272	53
F3	328	32
F4・F50	2	0
F4・F7・F8・F9・F50	466	6
F6	5	1
その他	163	4

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

外来では、認知症を診察するもの忘れ外来があり、急性期・慢性期の統合失調症、気分障害、不安障害にも対応している。入院病床は、精神一般が 48 床、認知症が 94 床、重症心身障害児(者)が 80 床であり、県内で唯一の司法精神医学の研修ができる医療観察法病棟（25 床）も有している。また、熊本医療センター、熊本再春荘病院、熊本セントラル病院、地域の医療機関と連携して地域医療、診療支援にも貢献している。当施設では、臨床心理士 5 名、精神保健福祉士 7 名、作業療法士 8 名などとコメディカルスタッフが豊富で、医療観察法病棟を中心としてチーム医療に取り組んでいる。

④ 施設名：肥前精神医療センター

- ・施設形態：公的病院 独立行政法人国立病院機構
- ・院長名：杠 岳文
- ・指導責任者氏名：武藤 岳夫
- ・指導医人数：(17) 人
- ・精神科病床数：(404) 床
- ・疾患別入院数・外来数 (年間)

疾患	外来患者数 (年間)	入院患者数 (年間)
F0	2 3 3	1 2 3
F1	5 8 1	3 1 9
F2	6 9 7	4 7 7
F3	5 2 6	1 7 6
F4 F50	6 0 4	4 1
F4 F7 F8 F9 F50	1 4 0 7	1 0 1
F6	1 0 9	2 0
その他	6 7 8	1 9 0

- ・施設としての特徴 (扱う疾患の特徴等)

脊振山系が目の前に広がる自然に恵まれた単科精神科病院である。佐賀県唯一の精神科救急病棟を有していることもあり、指定医、専門医の症例は豊富にあり、毎年 20 人以上の専攻医が研鑽を積んでいる。精神科救急病棟を教育研修の中心の場とし、精神科リハビリテーション、地域医療 (デイケア、訪問診療) を学ぶことができる。また、こどもの心の診療拠点病院、依存症治療拠点機関、認知症疾患医療センター、医療観察法指定入院・通院医療機関に指定されており、他施設では経験が難しい臨床経験 (児童精神医学、嗜癖、司法精神医学、精神鑑定の助手、救急トリアージ、D P A T 研修、C V P P 研修) も積むことができる。クロザピン、修正型電気けいれん療法の経験もできる。

⑤施設名：国立研究開発法人国立国際医療研究センター国府台病院

- ・施設形態：基幹型臨床研修病院
- ・院長名：上村直実
- ・指導責任者氏名：早川達郎
- ・指導医人数：(10) 人
- ・精神科病床数：(142) 床
- ・疾患別入院数・外来数 (年間)

疾患	外来患者数 (年間)	入院患者数 (年間)
F0	119	23
F1	61	14
F2	256	187
F3	257	55
F4	309	16
F5	76	2
F6	19	1
F7	86	3
F8	265	7
F9	189	2

- ・施設としての特徴 (扱う疾患の特徴等)

国立国際医療研究センター国府台病院は戦後まもなくから児童精神科専門病棟を運営してきた歴史があり、専門病棟を持つ唯一の国立高度医療研究センターです。その治療は同年代の仲間関係を利用しながら、子どもたちの主体性を伸ばし、一人でも多くの子どもが社会に参加していけることを目指した臨床と研究を実践しています。また、子どもに関わる様々な職種のスタッフが児童思春期精神医学の考え方や各治療技法を理解し習熟できるよう、医療、教育、福祉に係る専門家の研修に寄与することも活動目標の一つとしています。

平成 27 年度は精神科医師と小児科医師を含めた常勤医 5 名 (精神科指導医 4 名、

小児科専門医 2 名)、レジデント 9 名が治療に携わっています。外来診療は、約 70 名/日の外来患者の診療に当たっており、年間 600 名程度の初診患者を診療しています。また、当院の特徴として精神科開放病棟である児童精神科病棟 (45 床) を持ちます。長期の不登校児に対して社会参加の経験を増やすために、キャンプなどの活動的集団療法があります。また、小児の摂食障害を治療できる施設は少なく、身体的危機による緊急入院に対応するために、心療内科病棟での小児の摂食障害児の治療も行っています。

実際に行われている治療は、力動的な精神療法、薬物療法、認知行動療法、集団療法、ペアレントトレーニング、集団親ガイダンスであり、各種カンファレンスでの指導や個別のスーパーバイズを受けることができます。

幾つかの臨床研究も実践されております。精神科専門医取得後に児童精神科の専門的な研修をする場合には、興味のある分野での臨床研究の立案から論文作成まで可能で、児童青年精神医学会の認定医を取得に向けた症例を経験することができます。

なお、当院の児童精神科での研修の場合には、専門病棟で子どものケースのみを担当する特徴があり、児童精神科研修に集中できる特徴があります。豊富な症例と、経験豊かな常勤医たちの指導もあり、多くのレジデントの育成をしてきた実績もあります。そして、同世代の専攻医たちと一緒に働くことも魅力の一つです。

⑥施設名：弓削病院

・施設形態：特定医療法人

・院長名：相澤 明憲

・指導責任者氏名：相澤 明憲

・指導医人数：(2) 人

・精神科病床数：(160) 床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	160	90
F1	12	8
F2	670	247
F3	971	237
F4・F50	435	53
F4・F7・F8・F9・F50	498	76
F6	14	6
その他	23	1

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は、病床数は 160 で、精神科病院としては小規模であるが、「要請があれば断らない」ということを原則とし、あらゆる精神疾患に対応するべく努力している。精神科救急病棟と精神科急性期治療病棟を持ち、県内の精神科クリニックの他、総合病院など一般科からの紹介症例も多数受け容れ、入退院患者数、外来患者数とも県内で多い方から 1、2 番目となっている。したがって当院での精神科研修には以下のような特徴がある。

- ① 統合失調症から気分障害、認知症の B P S D から小児の発達障害、ストレスケア・リワーク目的の任意入院から措置入院まで、診断、病像、年齢の異なるさまざまな症例を多数経験することができる。
- ② 患者の平均在院日数は約 80 日と比較的短く、多くの症例で入院から退院までを経験することができる。
- ③ 長期化したあるいは長期化しそうな症例に対する退院支援にも力を傾注しており、チーム医療を活かした、地域連携・地域移行活動を学ぶことができる。
- ④ 新薬の臨床試験や難治性統合失調症患者に対するクロザピン内服治療に取り組んでおり、

関心があればそれらについての研修が可能である。

当院では、指定医取得や専門医資格取得のレポート症例を得ることは容易であり、そのみならず精神科臨床医として成長するのに必要なさまざまな研修ができるものと考えている。

⑦施設名：くまもと心療病院

- ・施設形態：医療法人
- ・院長名：荒木 邦生
- ・指導責任者氏名：荒木 邦生
- ・指導医人数：(6) 人
- ・精神科病床数：(322) 床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	976	93
F1	47	16
F2	629	107
F3	561	50
F4・F50	102	13
F4・F7・F8・F9・F50	205	8
F6	23	3
その他	135	14

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

ベッド数 322 床を持ち、それぞれの特徴を持つ 6 つの病棟にて入院治療を行っている。日本精神神経学会の専門医・指導医が多数在籍しており、急性期・慢性期の精神病性疾患、気分障害、神経症性障害等の豊富な症例を経験できる。

さらに、老年精神医学、精神科救急、てんかんにおいても豊富な経験を有する医師のもと、多くの症例を経験できる。また、熊本県より認知症疾患医療センターの指定を受けており、認知症専門外来を開設、各種認知症の診療を行っているため、老年期の精神障害については外来・入院ともに豊富な症例を経験できる。

⑧施設名：くまもと青明病院

- ・施設形態：精神科病院
- ・院長名：上田 啓司
- ・指導責任者氏名：上田 啓司
- ・指導医人数：(3) 人
- ・精神科病床数：(1 7 6) 床
- ・疾患別入院数・外来数 (年間)

疾患	外来患者数 (年間)	入院患者数 (年間)
F0	256	117
F1	15	2
F2	734	200
F3	711	125
F4・F50	200	38
F4・F50・F7・F8・F9	234	57
F6	3	3
その他	3	1

- ・施設としての特徴 (扱う疾患の特徴等)

「患者様の最善のパートナー」を理念に急性期医療から慢性期医療、高齢者、ストレス関連疾患医療まで幅広い診療を展開しています。同一法人に江南病院 (一般病院) や熊本内科病院、老人保健施設フォレスト熊本があるため身体合併症や介護領域までを含んだ包括的な医療福祉サービスを提供できるのが特徴です。また、関連施設にデイケアセンターや認知症デイサービスセンターがある他、熊本市から委託を受けている障がい者相談支援センターや認知症疾患医療センターを運営しているのが特徴です。

取り扱う疾患としては、精神医学分野全般に対応していますが、外来で特に多いのが統合失調症、気分障害です。次いで、認知症等や神経症性障害等となっています。また、新患においては認知症等が圧倒的に多く (全体の 5 0 % 超)、次いで気分障害、神経症性障害等となっています。入院においては統合失調症、気分障害、認知症等が中心となっています。これは当院が統合失調症を中心とした急・慢性期病棟やうつ病棟、認知症治療病棟から構成されていることによるものが大きいと言えます。

⑨施設名：阿蘇やまなみ病院

- ・施設形態：医療法人
- ・院長名：高森 薫生
- ・指導責任者氏名：高森 薫生
- ・指導医人数：(5) 人
- ・精神科病床数：(270) 床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	393	90
F1	15	3
F2	191	110
F3	232	12
F4・F50	2	0
F4・F7・F8・F9・ F50	2	0
F6	9	1
その他	1	1

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

県下でも高齢化率の高い阿蘇地域での唯一の精神科病院であり、高齢者医療の中心となっている。認知症疾患医療センターでもあり、認知症をはじめとする高齢者の精神疾患について経験を積むことができる。

高齢者の身体合併など、地域のかかりつけ医や一般科病院と連携が必要な症例も多い。また併設の介護老人保健施設、介護老人福祉施設、地域活動支援センターもあり、病院と協力しながら治療を行っている。地域の施設や行政等と連携しながら対応している症例も多く、地域医療（医療福祉資源の希薄な地域）の研修の場としては貴重な経験を得ることができる。

⑩ 施設名：社会医療法人ましき会 益城病院

- ・施設形態：連携施設
- ・院長名：松永哲夫
- ・指導責任者氏名：松永哲夫
- ・指導医人数：(4) 人
- ・精神科病床数：(210) 床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	726	173
F1	289	119
F2	396	189
F3	558	83
F4・F50	262	24
F4・F7・F8・F9・F50	329	22
F6	9	0
その他	42	7

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

- ① 平成 28 年 4 月の熊本地震で、外来・入院機能ともに一時的に停止したが、現在は外来 8 割、入院 9 割方回復している。研修に関しては特に支障なく、かえって以前より研修内容が増えて良かったとも思われる。
- ② 外来患者・入院患者の数が多。外来患者総数はデイケア参加者数の減少のために、やや減少傾向にあるが、新規の外来患者数と新規（初回）の入院患者数は相変わらず多い。
- ③ 新規外来患者の内訳としては、全体に万遍ない広がりを示している。多い順でいえば、認知症(F0)、気分障害(F3)、アルコール依存症(F1)で、平均的な病院と比べると F0 と F1 が多い。
- ④ 入院患者の内訳としては、やはり統合失調症(F2)と認知症(F0)が多い。
- ⑤ 認知症の診療に関しては、外来患者・入院患者ともに多く、熊本県認知症疾患センターとして県から指定を受けており、スタッフは研修を重ねながら、診療技術や診療環境の整備に努めている。

- ⑥ 統合失調症に関しては、入院患者数としては最も多い。
- ⑦ 以前から地域移行支援に取り組んでおり、デイケア、デイナイトケア、就労支援事業（パン工房、レストラン、園芸作業、清掃作業、洗濯作業、内職など）、共同住居、宿泊型自立訓練施設など多くの治療環境や施設を有している。
- ⑧ アルコール依存症に関しては、県内・県外から受診者が多く、毎月 200 名超のアルコール依存症が通院しているというのは、本県では他に類を見ないと思われる。
- ⑨ 社会医療法人として、僻地の精神科医療に貢献している。
- ⑩ 医療観察法の鑑定入院施設である。また同法以外の司法精神鑑定にも貢献している。

①施設名：医療法人社団松本会 希望ヶ丘病院

- ・施設形態：精神科病院
- ・院長名：松本武士
- ・指導責任者氏名：弟子丸元紀
- ・指導医人数：(2) 人
- ・精神科病床数：(177) 床
- ・疾患別入院数・外来数 (年間)

疾患	外来患者数 (年間)	入院患者数 (年間)
F0	103	75
F1	6	6
F2	187	132
F3	312	32
F4・F50	270	6
F4・F7・F8・ F9・F50	1077	75
F6	2	4

- ・施設としての特徴 (扱う疾患の特徴等)

* 専門外来

児童思春期外来、もの忘れ外来、インターネット依存外来 など

* 外来施設等

精神科デイケア Will、精神科訪問看護、認知症デイケアひまわり、
子どもと親の支援センター hope hill

* 対象疾患

<全般>

うつ病、統合失調症、神経症・心身症、不眠症、パニック障害、PTSD、
アルコール依存症、けいれん性疾患、精神遅滞、器質性精神障害、認知症
などの心身の健康障害

<児童・思春期>

児童思春期精神疾患、発達障害 (自閉症スペクトラム障害、注意欠如多動障害、学習
障害など)、精神遅滞、不登校、ひきこもり、インターネット依存 など

⑫施設名：医療法人精翠会吉田病院

- ・施設形態：医療法人
- ・院長名：村上 良慈
- ・指導責任者氏名：村上 良慈
- ・指導医人数：(3) 人
- ・精神科病床数：(198) 床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	539	45
F1	80	29
F2	472	188
F3	655	78
F4・F50	178	9
F4・F7・F8・F9・F50	229	11
F6	8	0
その他	0	0

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院では一般精神科医療全般を行います。地域生活支援のため隣接する地域生活支援センター翠、地域の就労支援事業所との連携で精神科リハビリテーションに力を入れることや、地域に多いアルコール依存症に対しての専門プログラムを提供すること、拠点型認知症疾患医療センターでの認知症対応、うつ病休職者への復職プログラムなどが特徴かと思えます。また、児童・思春期対応も細々ながら行います。また、精神科急性期治療病棟、精神科療養病棟、慢性期精神疾患の多い病棟、認知症など高齢者の多い病棟があり、さらに外来・地域連携部門（訪問診療、訪問看護、デイケア・ショートケアを含む）での地域生活支援まで一貫した精神科医療を行っており、各部門を経験することでバランスの良い一般精神科の研修になると思えます。また、看護師・精神保健福祉士・臨床心理士・作業療法士・薬剤師・栄養士・検査技師など各専門職種とのチーム医療も経験できます。地域の精神科病院の役割として各医療機関のみならず保健・福祉・行政・教育・労働産業等との連携活動への参加の機会も多くあります。

⑬施設名：啓正会 酒井病院

- ・施設形態：医療法人社団
- ・院長名：酒井 義雄
- ・指導責任者氏名：酒井 透
- ・指導医人数：(1) 人
- ・精神科病床数：(150) 床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	197	24
F1	71	13
F2	430	57
F3	531	51
F4・F50	116	1
F4・F7・F8・F9・F50	257	9
F6	3	0
その他	157	3

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は、地域の急性期精神科医療を主として担っており、統合失調症圏、気分障害、症状性を含む器質性精神障害、児童思春期および成人の発達障害等の外来ならびに入院治療を経験することが可能である。また、小規模ではあるが、アルコール依存症における院内断酒会や入院回復プログラムも行っており、精神作用物質による精神及び行動の障害による症例も経験することができる。

⑭施設名：八代更生病院

- ・施設形態： 民間施設
- ・院長名：宮本 憲司朗
- ・指導責任者氏名： 阿部 恭久
- ・指導医人数：(5) 人
- ・精神科病床数：(260) 床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	3 3 7	1 1 7
F1	8 5	5 3
F2	3 1 0	2 1 3
F3	5 0 3	1 2 1
F4・F50	1 9 6	1 9
F4・F7・F8・F9・F50	3 0 2	4 9
F6	3	3
その他	3 0	6

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院では思春期から高齢者までの幅広い年代について学習できることが大きな特徴です。精神科急性期治療病棟においては精神科救急及びmECT、認知症治療病棟では認知症のマネジメント、精神科一般病棟では治療抵抗性統合失調症へのクロザピン投与、精神科療養病棟では患者の退院支援を行っており、病棟毎の特色を生かした治療について学習も可能です。

また、県下では唯一臨床精神神経薬理学会専門医が3名在籍しており、精神科薬物治療についての系統だった学習が可能です。

精神神経学会ばかりではなく、老年精神医学会専門医研修施設でもあります。

熊本大学神経精神科との共同研究も行っており、各学会発表、論文投稿もご指導いたします。

3. 研修プログラム

1) 年次到達目標

専攻医は精神科領域専門医制度の研修手帳にしたがって専門知識を習得する。研修期間中に以下の領域の知識を広く学ぶ必要がある。1.患者及び家族との面接、2.疾患概念の病態の理解、3.診断と治療計画、4.補助検査法、5.薬物・身体療法、6.精神療法、7.心理社会的療法など、8.精神科救急、9.リエゾン・コンサルテーション精神医学、10.法と精神医学、11.災害精神医学、12.医の倫理、13.安全管理。各年次毎の到達目標は以下の通りである。

到達目標

1年目：原則、基幹施設で、指導医と一緒に統合失調症、気分障害、器質性精神障害の患者等を受け持ち、面接の仕方、診断と治療計画、薬物療法及び精神療法の基本を学び、コンサルテーション・リエゾン精神医学を経験する。とくに面接によって情報を抽出し診断に結びつけるとともに、良好な治療関係を構築し維持することを学ぶ。基本的な神経学的所見の取り方、脳画像および脳波検査所見の読み方を習得する。精神科臨床セミナーに必ず参加する。興味深い症例については、教室内での検討会を経て精神科地方会や学会で発表・討論し、症例報告もしくは臨床研究の専門誌への投稿に備える。

2年目：連携施設で、指導医の指導を受けつつ、自立して、面接の仕方を深め、診断と治療計画の能力を充実させ、薬物療法の技法を向上させ、精神療法として認知行動療法と力動的な精神療法の基本的考え方と技法を学ぶ。精神科救急に従事して対応の仕方を学ぶ。神経症性障害および種々の依存症患者の診断・治療を経験する。精神科地方会や学会で発表・討論する。

3年目：指導医から自立して診療できるようにする。連携施設はより幅広い選択肢の中から専攻医の志向に即した専門性を考慮して選択する。心理社会的療法、精神科リハビリテーション・地域精神医療等を学ぶ。児童・思春期精神障害およびパーソナリティ障害の診断・治療を経験する。基本的な臨床研究の進め方を習得する。ひきつづき精神療法の修練を行う。全国規模の学会・研究会などで積極的に症例発表する。興味深い症例について専門誌に投稿し、論文のまとめ方について経験する。

2) 研修カリキュラムについて

研修カリキュラムは、「専攻医研修マニュアル」（別紙）、「研修記録簿」（別紙）を参照。

3) 個別項目について

基幹施設において他科の専攻医とともに研修会が実施される。同じく基幹施設におけるコンサルテーション・リエゾン診療を通して身体科との連携を持つことにより、医師としての責任や社会性、倫理観などについても学ぶ機会を得ることができる。

① 学問的姿勢

専攻医は常に自己研鑽し、学習することが求められる。すべての研修期間を通じて担当する症例に関して、過去の類似症例について文献検索するなどの姿勢を心がける。特に興味ある症例については、専門誌などへの投稿を進める。

② コアコンピテンシーの習得

研修期間を通じて、1) 治療関係の構築、2) チーム医療の実践、3) 安全管理、4) 症例プレゼンテーション技術、5) 医療における社会的・組織的・倫理的側面の理解、を到達目標とし、医師としてのコアコンピテンシーの習得を目指す。さらに精神科診断面接、精神療法、精神科薬物療法、コンサルテーション・リエゾンといった精神科医特有の基本的診療能力の獲得を目指す。

③ 学術活動（学会発表、論文の執筆等）

基幹施設において臨床研究に従事し、その成果を学会などで発表する。

④ 自己学習

生涯にわたって学習する習慣を身に付ける。カンファレンスなどを通して病態と診断過程について理解し、治療ガイドラインなどを参考にして、治療計画作成の理論を学ぶ。学会等で作成している研修ガイド、e-learning、ビデオなどを活用して、より広く深い知識と技能の習得に努める。

4) ローテーションモデル

1年目は原則、基幹施設をローテートし、精神科医としての基本的な知識を身につける。2-3年目には総合病院精神科（B①）、公的な単科精神科病院（B②③④）、特色ある私的単科精神科病院（B⑤~⑬）を各1年ずつローテートし、精神科救急、身体合併症治療、難治・急性期症例、児童・思春期症例、地域連携症例を幅広く経験し、精神療法、薬物療法を主体とする治療手技、生物学的検査・心理検査などの検査手法、精神保健福祉法や社会資源についての知識と技術を深めていく。2-3年目のローテート順については、本人の希望に応じて多彩な研修コースが可能である。可能な限り専門性の高い医療を実践している連携施設の中から本人の志向に合わせた研修先を選択できる各種強化コースを用意している（別紙1）。また、連携施設等において研修指導体制が

十分でないと判断された場合は、必要に応じ、基幹施設から研修指導医を定期的に派遣したり、インターネットを利用した定期的な会議や指導を実施するなど、然るべき対策を講じることとする。

- 5) 研修の週間・年間計画
別紙2と別紙3を参照。

4. プログラム管理体制について

プログラム管理委員会は下記から構成され、専攻医および研修プログラム全般の管理と研修プログラムの継続的改良を行う。

・プログラム管理委員会

- 委員長 医師：橋本 衛
- 医師：城野 匡
- 医師：石川 智久
- 医師：梶尾 勇介
- 医師：渡邊 健次郎
- 医師：濱元 純一
- 医師：木村 武実
- 医師：相澤 明憲
- 医師：宮本 憲司朗
- 医師：松永 哲夫
- 医師：荒木 邦生
- 医師：上田 啓司
- 医師：高森 薫生
- 医師：松本 武士
- 医師：村上 良慈
- 医師：酒井 透
- 医師：牛島 洋景
- 医師：武藤 岳夫
- 医師：藤瀬 昇
- 看護師：瀧下 裕子
- 精神保健福祉士：丸山 貴志

・プログラム統括責任者

橋本 衛

・連携施設における委員会組織

各連携病院の指導責任者および実務担当の指導医によって構成される。

5. 評価について

1) 評価体制

熊本大学医学部附属病院神経精神科：橋本 衛

熊本大学医学部附属病院神経精神科：城野 匡

国立病院機構熊本医療センター：渡邊 健次郎

熊本県立こころの医療センター：濱元 純一

国立病院機構菊池病院：木村 武実

弓削病院：相澤 明憲

八代更生病院：宮本 憲司朗

くまもと心療病院：荒木 邦生

くまもと青明病院：上田 啓司

阿蘇やまなみ病院：高森 薫生

益城病院：松永 哲夫

希望ヶ丘病院：松本 武士

吉田病院：村上 良慈

酒井病院：酒井 透

国立病院機構肥前精神医療センター：武藤 岳夫

国立国際医療研究センター国府台病院：牛島 洋景

2) 評価時期と評価方法

- ・ 3ヶ月ごとに、カリキュラムに基づいたプログラムの進行状況を専攻医と指導医が確認し、その後の研修方法を定め、研修プログラム管理委員会に提出する。
- ・ 研修目標の達成度を、当該研修施設の指導責任者と専攻医がそれぞれ6ヶ月ごとに評価し、フィードバックする。
- ・ 1年後に1年間のプログラムの進行状況並びに研修目標の達成度を指導責任者が確認し、次年度の研修計画を作成する。またその結果を統括責任者に提出する。その際の専攻医の研修実績および評価には研修記録簿／システムを用いる。
- ・ 研修プログラム管理委員会において、知識、技能、態度それぞれについて評価を行い、総合的に終了を判定する。

3) 研修時に則るマニュアルについて

「研修記録簿」(別紙)に研修実績を記載し、指導医による形成的評価、フィードバックを受ける。総括的評価は精神科研修カリキュラムに則り、少なくとも年1回おこなう。

基幹施設にて専攻医の研修履歴(研修施設、期間、担当した専門研修指導医)、研修実績、研修評価を保管する。さらに専攻医による専門研修施設および専門研修プロ

グラムに対する評価も保管する。

プログラム運用マニュアルは以下の専攻医研修マニュアルと指導医マニュアルを用いる。

- 専攻医研修マニュアル（別紙）

- 指導医マニュアル（別紙）

・ 専攻医研修実績記録

「研修記録簿」に研修実績を記録し、一定の経験を積むごとに専攻医自身が形式的評価をおこない記録する。少なくとも年に1回は形式的評価により、指定された研修項目を年次ごとの達成目標に従って、各分野の形式的自己評価をおこなうこと。研修を修了しようとする年度末には総括的評価により評価が行われる。

・ 指導医による指導とフィードバックの記録

専攻医自身が自分の達成度評価をおこない、指導医も形式的評価をおこない記録する。指導医は、少なくとも年1回は指定された研修項目を年次ごとの達成目標に従って、各分野の形式的評価を行い、「劣る」「やや劣る」の評価をつけた項目については必ず改善のためのフィードバックを行い、記録し、翌年度の研修に役立たせる。指導医は、学会あるいは機構の実施するコーチング、フィードバック技法、振り返りの促し等の技法を中心とした研修を受けることとする。

5. 全体の管理運営体制

研修施設の責任者は、専攻医のために適切な労働環境の整備に努め、専攻医の心身の健康維持に配慮する。

1) 専攻医の就業環境の整備（労務管理）

各施設の労務管理基準に準拠する。

2) 専攻医の心身の健康管理

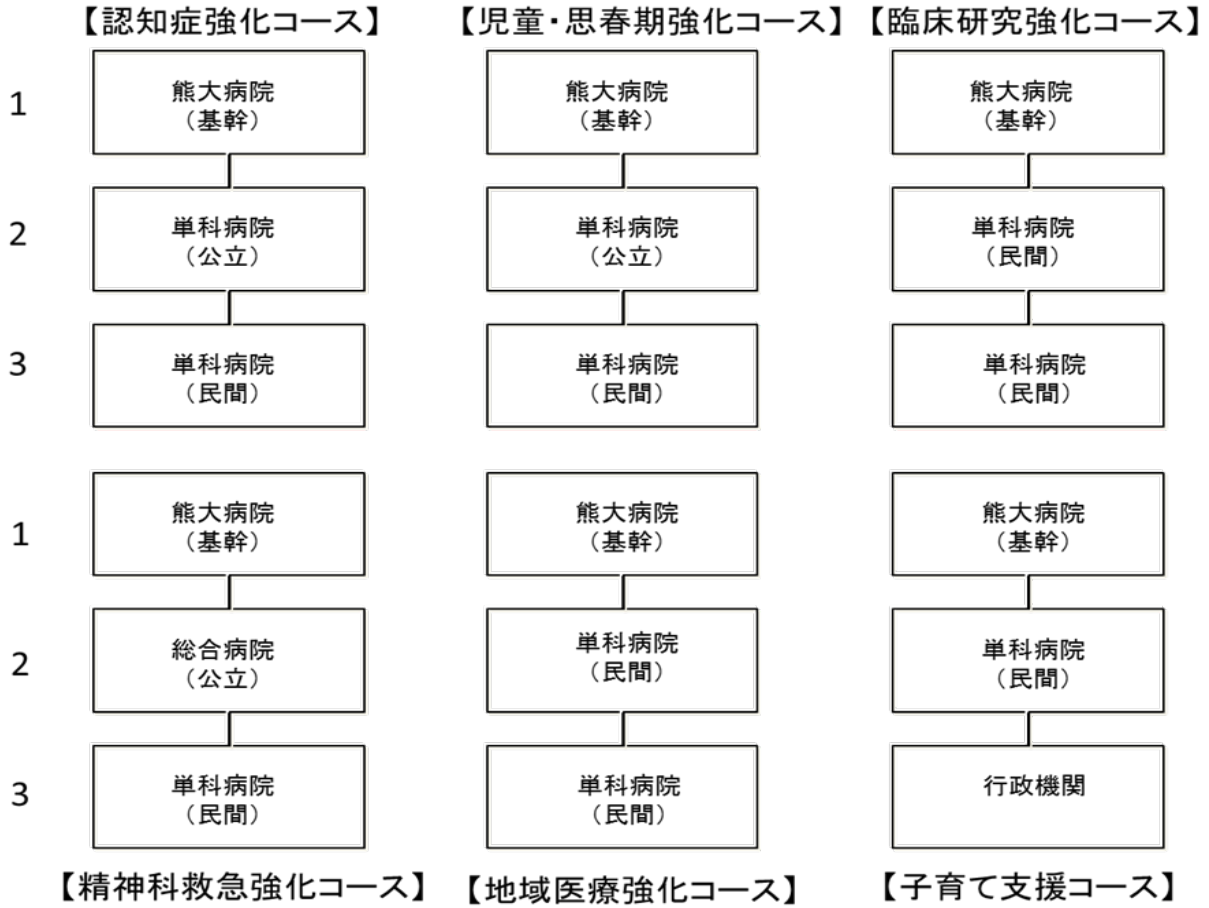
各施設の健康管理基準に準拠する。

3) プログラムの改善・改良

プログラム管理委員会にて定期的にプログラム内容について討議し、継続的な改良を実施する。

4) FDの計画・実施

年1回、プログラム管理委員会が主導し各施設における研修状況进行评估する。



【週間スケジュール】

①熊本大学医学部附属病院

	月	火	水	木	金
9:00～	病棟カンファ 教授回診	専門外来予診	教授外来（新 患）陪席 専門外来予診	専門外来予診	病棟業務
	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務
16:00～	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟グループ カンファ
夕方以降	精神科臨床セ ミナー (18:30～)	認知症・高次 脳機能障害専 門外来ミーテ ィング (18:00～)	子ども外来ミ ーティング (17:30～)	シルバーうつ 外来ミーティ ング (17:00～)	

※40 時間超過は自由参加

※いずれの施設においても、就業時間が 40 時間/週を超える場合は、専攻医との合意の上で実施される。
原則として、40 時間/週を超えるスケジュールについては自由参加とする。

②国立病院機構熊本医療センター精神科

	月	火	水	木	金
9:00～	外来予診	救急外来予 診	病棟業務	救急外来予 診	外来予診
	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務
14:00～	病棟業務	病棟業務	病棟カンフ ァランス	病棟業務	病棟業務
夕方以 降			自傷行為再 企図防止ミ ーティング		症例検討会

※40 時間超過は自由参加

③熊本県立こころの医療センター

	午前（9:00～12:00）	午後（13:00～17:00）
月	病棟または外来研修	病棟研修、講義、症例カンファレンス
火	病棟または外来研修	病棟研修
水	病棟または外来研修	病棟研修、合同カンファレンス
木	病棟または外来研修	病棟研修、集団療法

金	病棟または外来研修	病棟研修、講義 診療部会（第1週・第3週）
---	-----------	--------------------------

④ 国立病院機構菊池病院

月	火	水	木	金
午前・午後：病棟業務 13:30：院長回診 14:00：治療評価会議	午前：外来予診 午後：病棟業務 16:00：デイケア診察	午前：外来予診 午後：病棟業務 15:00：医療観察法病棟カンファレンス	午前：院長外来陪席 午後：病棟業務 16:00：デイケア診察	午前・午後：病棟業務 12:30：TV 回線クルズス 17:00：症例検討会

※40 時間超過は自由参加

⑤ 肥前精神医療センター

	月	火	水	木	金
8:30-9:00	児童グループモーニングカンファレンス（毎週）				モーニングカンファレンス
9:00-12:00	病棟診療	外来診療（再来）	統括診療部長教育回診（月2回） 病棟診療	院長回診（毎週） 病棟診療	外来診療（新患予診）
			アルコールリハビリテーションプログラム 発達障害児のペアレントトレーニング（お母さんの学習室）		
12:00-13:00					国立病院機構精神医学講義（基礎講座、応用講座）
13:00-17:30	病棟診療 医師養成研修センター長教育回診（月2回）	病棟診療 ECT	病棟診療 医局会（毎週） 新入院報告会（毎週） チームミーティング（月1回） 症例検討会（月1回） 黒木九州大学教授教育回診（月2回） 脳波判読会（毎週） 救急病棟多職種カンファレンス（毎週） 先端精神医学セミナー（不定期）	病棟診療 褥瘡回診（月1回）	病棟診療 ECT
17:30-20:00	アルコール薬物関連問題勉強会（ひみこクラブ）（月1回）		認知症多職種勉強会（月2回） アルコール薬物関連問題勉強会（B I & HAPPY 勉強会）（月1回）		肥前セミナー（不定期）

※40 時間超過は自由参加

⑥ 国立国際医療研究センター国府台病院

	月	火	水	木	金
時間帯を記入		レクリエーション(不定期)		レクリエーション(不定期)	
8:30-9:30	病棟カンファレンス	病棟カンファレンス	児童精神科カンファレンス	病棟カンファレンス	病棟カンファレンス
9:30-11:30	初診	外来	児童精神科カンファレンス	外来	外来
13:00-14:00	病棟	外来	病棟レビュー	外来	外来
14:00-16:00	病棟	精神科医局会	特別病棟連絡会	外来	外来
16:00-	病棟	病棟	病棟	病棟	病棟
18:00-				研究会	

※40時間超過は自由参加

⑦弓削病院

	月	火	水	木	金
8:30~ 8:50	医局カンファ	院外研修	医局カンファ	医局カンファ	医局カンファ
9:00~	病棟・外来		病棟・外来	病棟・外来	病棟・外来
13:00~ 13:30	症例検討会		医局会	月1回 行動制限 最小化委員会	
13:30~ 17:00	病棟・外来		病棟	病棟・外来	病棟・外来

⑧くまもと心療病院

	月	火	水	木	金
午前	病棟実習 または 外来予診	病棟実習 または 外来予診	病棟実習 または 外来予診	認知症専門 外来予診・陪席	病棟実習 または 外来予診
午後	病棟実習 および 研修指導	病棟実習 および 研修指導	病棟実習 および 研修指導	病棟実習 および 研修指導	病棟実習 および 研修指導
	アルコールプログラム		NST回診		
	医局会				
	治療検討会 抄読会				

⑨くまもと青明病院

	月	火	水	木	金
午前	ECT 実習 外来陪席 予診	病棟回診	ECT 実習 病棟回診	外来陪席 予診	ECT 実習 訪問看護 デイケア
午後	医局連絡会 外来陪席 予診、病棟 入院時カンファレンス	外来陪席 予診、病棟	病棟回診	外来陪席 予診、病棟	外来陪席 予診、病棟 脳波判読実習

⑩阿蘇やまなみ病院

曜日	午前	午後
月曜	外来、病棟診療	病棟診療
火曜	施設往診	病棟診療
水曜	外来、職員会議	薬剤説明会、医局会議、症例検討
木曜	外来（もの忘れ外来）	外来（もの忘れ外来）
金曜	外来、病棟診療	病棟診療

⑪益城病院

	月	火	水	木	金
9:00～	外来 ^{註1)} (予診・陪席)	外来 ^{註1)} (予診・陪席)	医局カンファ レンス ^{註2)}	外来 ^{註1)} (予診・陪席)	外来 ^{註1)} (予診・陪席)
13:00～	病棟 ^{註3)}	病棟 ^{註3)}	病棟 ^{註3)}	病棟 ^{註3)}	病棟 ^{註3)}
18:00～			院外カンファ レンス ^{註4)}		院外カンファ レンス ^{註4)}

※40 時間超過は自由参加

註1) 当院の外来は、一般外来（うつ病・神経症・統合失調症など）の他に、専門外来としては、認知症・アルコール依存症・児童思春期・てんかん、などがあります。

註2) 医局カンファの内容としては、通常医局会（連絡・情報交換など）に加えて、医局会研修手帳の内容に沿った系統的な講義、DVD教材を用いた検討会、症例検討会など。

註3) 午後は、基本的に病棟勤務ですが、時に院外の診療に出かけることもあります。たとえば、僻地（蘇陽病院、山都町井無田地区・北部地区、湯島など）、老人施設（特別養護老人ホーム花へんろ、養護老人ホーム花へんろ、グループホームふるさと）、知的障害者施設（熊東園）などです。また機会があれば、措置鑑定、司法精神鑑定（検察庁）、医療観察法審判（裁判所）などに陪席することもあります。

註4) ときに院外カンファレンスに参加することもあります。開催場所は、他の病院、行政機関（県、市町村）、市街のホテルなど。水曜日と金曜日に多いため、上記の表においては当該曜日の欄に記入してありますが、他の曜日に開かれることもあります。頻度は月に数回程度で、院外の情報に触れたり懇親を深めたりする場になります。

⑫希望ヶ丘病院

	月	火	水	木	金
8:30～	病棟カンファ	病棟カンファ	病棟カンファ	病棟カンファ	病棟カンファ
	専門外来予診 (児童思春期 全般) 病棟業務	病棟業務	院長回診 ペアレント トレーニング	指導医陪席 病棟業務	児童思春期 デイケア
13:30～	病棟カンファ	病棟カンファ	病棟カンファ	病棟カンファ	病棟カンファ
	専門外来予診 (ネット依存)	病棟業務	集団認知 行動療法	病棟ミーティ ング	病棟業務 指導医専門相 談
17:00～	児童思春期 症例検討会	教育・福祉と の連携会議			

※40 時間超過は自由参加

⑬精翠会吉田病院

	月	火	水	木	金
9:00～	認知症専門外来予診、陪席、診察	一般外来予診、陪席、診察	認知症外来予診、陪席、診察	一般外来予診、陪席、診察	一般外来予診、陪席、診察
	病棟業務	病棟業務、訪問診療	病棟業務	病棟業務	病棟業務
13:00～	病棟業務 適時カンファレンス・委員会	病棟業務 訪問診療 適時カンファレンス・委員会	病棟業務 適時カンファレンス・委員会	病棟業務 適時カンファレンス・委員会	病棟業務 医局会 適時カンファレンス・委員会
夕方以降	適時研修等	適時研修等	適時研修等	適時研修等	適時研修等

※40 時間超過は自由参加

⑭酒井病院

	月	火	水	木	金
9 00					
	病棟回診	外来陪席	病棟業務	病棟業務	外来陪席
12 30		新患予診			新患予診
		昼	休	み	
13 30					
	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務
17 00					
夕方以降		勉強会	症例検討会		

※40 時間超過は自由参加

⑮八代更生病院

	月	火	水	木	金
9:00～	<ul style="list-style-type: none"> ・合同連絡会議 ・外来予約診療 (物忘れ外来) 	<ul style="list-style-type: none"> ・合同連絡会議 ・外来予約診療 (うつ病外来) 	<ul style="list-style-type: none"> ・合同連絡会議 ・外来予約診療 (思春期外来) 	<ul style="list-style-type: none"> ・合同連絡会議 ・外来予約診療 	<ul style="list-style-type: none"> ・合同連絡会議 ・外来予約診療 (アルコール外来)
	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務
14:00～	<ul style="list-style-type: none"> ・入院患者合同 治療ミーティ ング ・認知症勉強会 	<ul style="list-style-type: none"> ・気分障害勉強 会 	<ul style="list-style-type: none"> ・往診 (※) ・発達障害勉強 会 	<ul style="list-style-type: none"> ・入院患者合同 治療ミーティ ング ・あさぎり町調 査 (月1回) ・思春期SST (月1回) 	<ul style="list-style-type: none"> ・医局会 ・薬物治療勉強 会 ・院内断酒会 (2週1回) ・医局勉強会 (月1回)
夕方以降	院外研修会	院外研修会	院外研修会	院外研修会	院外研修会

※40 時間超過は自由参加

【年間スケジュール】

① 熊本大学医学部附属病院

4月	新入医局員オリエンテーション（約2週間）
5月	精神保健福祉法及び行動制限最小化に伴う研修会
6月	日本精神神経学会総会参加 日本老年精神医学会参加（任意） 認知症ケア学会参加（任意）
7月	熊本精神神経学会参加・演題発表 日本うつ病学会参加（任意）
9月	日本神経心理学会参加（任意） IPA International Congress 参加（任意）
10月	研修中間報告書提出 日本認知症学会参加（任意） Asian Society Against Dementia 参加（任意） 日本児童青年期精神医学会参加（任意）
11月	九州精神神経学会参加・演題発表 日本高次脳機能障害学会参加（任意）
12月	研修プログラム管理委員会開催
2月	熊本精神神経学会参加・演題発表
3月	日本社会精神医学会（任意） 日本正常圧水頭症学会（任意） 専攻医：前年研修報告書の提出および次年度の研修計画作成 研修プログラム評価報告書の作成
その他	精神科臨床セミナー（毎月1-2回・月曜18:30～） リサーチミーティング（毎月第1月曜18:00～） 認知症疾患医療センター症例検討会（毎月第2土曜15:00～）

② 国立病院機構熊本医療センター精神科

4月	新入医局員オリエンテーション（約1週間） 新任医師宿泊研修会
5月	熊本脳神経疾患懇話会・演題発表
6月	日本精神神経学会総会参加（任意） 熊本脳神経疾患懇話会・演題発表 救急症例検討会・演題発表
7月	熊本精神神経学会参加・演題発表
9月	熊本脳神経疾患懇話会・演題発表
10月	熊本脳神経疾患懇話会・演題発表 日本精神科救急学会参加（任意）
11月	九州精神神経学会参加・演題発表 熊本脳神経疾患懇話会・演題発表 日本総合病院精神医学会参加（任意）
1月	熊本医療センター医学会・演題発表
2月	熊本精神神経学会参加・演題発表 熊本脳神経疾患懇話会・演題発表
3月	
その他	

③熊本県立こころの医療センター

4月	新任者オリエンテーション
5月	精神保健福祉法及び行動制限最小化に伴う研修会
6月	日本精神神経学会総会参加 日本老年精神医学会参加（任意） 認知症ケア学会参加（任意）
7月	熊本精神神経学会参加・演題発表 日本うつ病学会参加（任意）
9月	日本神経心理学会参加（任意） IPA International Congress 参加（任意）
10月	研修中間報告書提出 日本認知症学会参加（任意） Asian Society Against Dementia 参加（任意） 日本児童青年期精神医学会参加（任意）
11月	九州精神神経学会参加・演題発表 日本高次脳機能障害学会参加（任意）
12月	研修プログラム管理委員会開催
2月	熊本精神神経学会参加・演題発表
3月	日本社会精神医学会（任意） 専攻医：前年研修報告書の提出および次年度の研修計画作成 研修プログラム評価報告書の作成
その他	パーソナリティ障害・トラウマ関連問題臨床検討会（隔月1回・月曜18:00～）

④国立病院機構菊池病院

4月	新入医局員オリエンテーション（5日間）
5月	医療安全対策研修 院内感染防止研修
6月	日本精神神経学会総会参加 日本老年精神医学会参加（任意） 日本司法精神医学会参加（任意）
7月	熊本精神神経学会参加・演題発表 国立病院機構レジデントフォーラム参加
9月	菊池病院・大悟病院認知症研修会参加
10月	研修中間報告書提出 日本認知症学会参加（任意） 国立病院総合医学会参加・演題発表
11月	九州精神神経学会参加・演題発表 認知症セミナーin きくち参加
12月	認知症セミナーin きくち参加 医療安全対策研修
2月	熊本精神神経学会参加・演題発表
3月	専攻医：前年研修報告書の提出および次年度の研修計画作成 研修プログラム評価報告書の作成
その他	認知症疾患医療センター症例検討会（毎月第2土曜 15：00～）

⑤肥前精神医療センター

	内容
4月	東京児童精神医学研究会、国府台児童精神医学研究会
5月	
6月	日本精神神経学会、病棟・鋸山遠足
7月	欧州児童青年精神医学会、病棟キャンプ
8月	国際児童青年精神医学会
9月	国府台児童精神医学研究会
10月	児童精神薬物療法研究会
11月	日本児童青年精神医学会
12月	病棟クリスマス会
1月	千葉県児童青年精神医学研究会
2月	厚生労働省こころの健康づくり事業思春期精神保健研修
3月	集団精神療法学会発表、病棟お別れ会

⑥国立国際医療研究センター国府台病院

	内容
4月	東京児童精神医学研究会、国府台児童精神医学研究会
5月	
6月	日本精神神経学会、病棟・鋸山遠足
7月	欧州児童青年精神医学会、病棟キャンプ
8月	国際児童青年精神医学会
9月	国府台児童精神医学研究会
10月	児童精神薬物療法研究会
11月	日本児童青年精神医学会
12月	病棟クリスマス会
1月	千葉県児童青年精神医学研究会
2月	厚生労働省こころの健康づくり事業思春期精神保健研修
3月	集団精神療法学会発表、病棟お別れ会

⑦弓削病院

4月	派遣医員オリエンテーション(約2週間) 病棟業務、外来業務、デイケア・デイナイトケア業務のオリエンテーションは必須です。往診や訪問看護への付き添い、デイケア・デイナイトケアでの院外研修への参加は希望に応じて可能です(任意)。勤務時間内での参加になります。
5月	各種学会への参加(原則任意) 精神神経学会などへの参加は年1回までは旅費などの援助があります。
6月	各種学会への参加(原則任意)
7月	熊本精神神経学会参加・演題発表
8月	各種学会への参加(原則任意)
9月	各種学会への参加(原則任意) CAT(小児思春期センター)公開ケースカンファレンス
10月	各種学会への参加(原則任意)
11月	各種学会への参加(原則任意)
12月	各種学会への参加(原則任意)
1月	各種学会への参加(原則任意)
2月	熊本精神神経学会参加・演題発表 CAT(小児思春期センター)公開ケースカンファレンス
3月	各種学会への参加(原則任意) 院内講演会(熊本大学から講師招聘)
その他	熊本精神神経学会での演題発表は7月又は2月のいずれかに、少なくとも1回は発表してもらいます。 学会への参加実績は以下の通り(年間平均)。 5~6月 精神神経学会 2~3名 6月 老年期精神医学会 1~2名 8~10月 日本精神科診断学会 1~2名 10月 日本児童青年精神学会 2名 12月 認知症学会 1~2名

⑧くまもと心療病院

4月	
5月	日本司法精神医学会（任意）
6月	日本精神神経学会総会 日本老年精神医学会（任意）
7月	熊本精神神経学会
8月	
9月	
10月	日本精神科救急学会（任意）
11月	
12月	
1月	
2月	熊本精神神経学会
3月	

⑨くまもと青明病院

4月	新入職員研修会（2日間）
5月	精神保健福祉法及び行動制限最小化に伴う研修会
6月	日本精神神経学会総会（任意） 日本老年精神医学会（任意） 認知症ケア学会（任意）
7月	熊本精神神経学会（任意） 日本うつ病学会参加（任意）
9月	日本神経心理学会参加（任意）
10月	研修中間報告書提出 新入職員フォローアップ研修会 日本認知症学会参加（任意） 日本児童青年期精神医学会参加（任意）
11月	九州精神神経学会 日本高次脳機能障害学会参加（任意） くまもと青明病院シンポジウム
12月	
2月	くまもと青明病院 地域シンポジウム 熊本精神神経学会（任意）
3月	日本社会精神医学会（任意） 専攻医：前年研修報告書の提出および次年度の研修計画作成 研修プログラム評価報告書の作成
その他	医局カンファレンス・症例検討会（月1回） 認知症疾患医療センター事例検討会（年3回） 認知症疾患医療センター（熊大）症例検討会（月1回）

⑩阿蘇やまなみ病院

4月	オリエンテーション 熊本県認知症疾患医療センター 事例検討会
5月	
6月	日本精神神経学会学術総会 参加 日本老年精神医学会 参加（任意） 熊本県認知症疾患医療センター 事例検討会 研修施設実績報告書 提出
7月	熊本精神神経学会 参加
8月	熊本県認知症疾患医療センター 事例検討会
9月	熊本県認知症疾患医療センター 地域版事例検討会
10月	熊本県認知症疾患医療センター 事例検討会
11月	九州精神神経学会 参加
12月	熊本県認知症疾患医療センター 事例検討会 熊本県認知症疾患医療センター 地域版事例検討会
1月	
2月	熊本精神神経学会 参加 熊本県認知症疾患医療センター 事例検討会
3月	熊本県認知症疾患医療センター 地域版事例検討会

⑪益城病院

4月	<p>新入医局員オリエンテーション（約2週間）</p> <p>熊本県認知症疾患センター基幹施設（熊大病院）研修会</p>
6月	<p>日本精神神経学会総会</p> <p>熊本県認知症疾患センター基幹施設（熊大病院）研修会</p> <p>上益城地区認知症疾患センター研修会</p>
7月	熊本精神神経学会
8月	熊本県認知症疾患センター基幹施設（熊大病院）研修会
10月	<p>研修中間報告書提出</p> <p>益城病院院内学会</p> <p>熊本県認知症疾患センター基幹施設（熊大病院）研修会</p> <p>上益城地区認知症疾患センター研修会</p>
11月	九州精神神経学会
12月	<p>熊本アルコール関連問題学会</p> <p>熊本県認知症疾患センター基幹施設（熊大病院）研修会</p>
2月	<p>熊本精神神経学会</p> <p>熊本県認知症疾患センター基幹施設（熊大病院）研修会</p> <p>上益城地区認知症疾患センター研修会</p>
3月	<p>専攻医：前年研修報告書の提出および次年度の研修計画作成</p> <p>研修プログラム評価報告書の作成</p>

⑫希望ヶ丘病院

4月	<p>新入医局員オリエンテーション(約1週間)</p> <p>児童思春期疾患院内講演</p> <p>精神保健福祉法および行動制限最小化に伴う研修会</p>
5月	<p>発達障害院内講演</p>
6月	<p>日本精神神経学会参加</p> <p>日本老年精神医学会参加(任意)</p> <p>統合失調症院内講演</p>
7月	<p>熊本精神神経学会参加・演題発表</p> <p>小児科連携研修：小児リエゾン(熊本県こども総合療育センター)</p>
8月	<p>こころの健康アドバイザー事業全体研修会</p> <p>うつ病についての院内講演</p>
9月	<p>日本神経心理学会参加(任意)</p>
10月	<p>研修中間報告書提出</p> <p>日本児童青年期精神医学会参加(任意)</p> <p>小児神経疾患についての院内講演</p>
11月	<p>九州精神神経学会参加(任意)</p>
12月	<p>研修プログラム管理委員会開催</p> <p>認知症についての院内公講演</p>
1月	<p>第1回熊本県児童思春期病棟研修会</p>
2月	<p>熊本精神神経学会参加・演題発表</p> <p>九州アルコール学会(任意)</p>
3月	<p>専攻医：前年研修報告書の提出および次年度の研修計画作成</p> <p>研修プログラム評価報告書の作成</p> <p>院内研究発表会</p>
その他	<p>上益城郡こころの健康アドバイザー事業参加(年3回)</p> <p>子どもの司法と精神保健・福祉を考える会 in 熊本参加(年2回)</p> <p>認知症疾患医療センター研修会(年3回)</p> <p>御船町認知症多職種事例検討会参加(年3回)</p>

⑬精翠会吉田病院

4月	新入医局員（含新入社員研修）オリエンテーション、精神保健福祉法研修
5月	関連施設見学・研修
6月	日本精神神経学会総会参加
7月	熊本精神神経学会参加・演題発表
9月	院内研修講義担当
10月	研修中間報告書提出
11月	九州精神神経学会参加・演題発表
12月	研修プログラム管理委員会開催
2月	熊本精神神経学会参加・演題発表
3月	専攻医：前年研修報告書の提出および次年度の研修計画作成 研修プログラム評価報告書の作成
その他	熊本大学病院神経精神科各研修参加（認知症疾患医療センター症例検討会など） 医療安全、行動制限最小化、感染等に関する院内研修 精神科関係各学会参加・演題発表

⑭酒井病院

4月	オリエンテーション 文化祭（院内）
5月	
6月	日本精神神経学会総会参加 くませいフェスタ参加（任意）
7月	熊本精神神経学会参加
8月	夏祭り（院内）
9月	体育祭（院内）
10月	研修中間報告書提出
11月	九州精神医学会参加
12月	演芸際（院内）
1月	
2月	熊本精神神経学会参加
3月	研修報告書提出および次年度の研修計画作成 天草地域医療連携意見交換会

⑮八代更生病院

4月	熊大新入医局員オリエンテーション参加
5月	院内研修会（行動制限最小化・医療安全・感染対策）
6月	日本精神神経学会 日本老年精神医学会
7月	熊大精神神経学会 日本うつ病学会
9月	日本神経心理学会 自殺予防学会
10月	研修医中間報告書提出 日本児童青年期精神医学会
11月	九州精神神経学会 日本臨床精神神経薬理学会
12月	研修医プログラム管理委員会
2月	熊大精神神経学会参加
3月	専攻医：前年研修報告書の提出、および次年度の研修計画作成 研修プログラム評価報告書の作成
その他	認知症疾患医療センター拠点型症例検討会